

そこで政府は、これまで小規模農家にも交付されていた各種補助金を、今後は「担い手」と呼ぶ大規模農家や農業法人に集中投下させて小規模農家を組織化し、国際競争力の高い農家を育成する施策に方向転換しました。

本市でも、これらを背景とした取り組みを早急に進めるとともに、「地域実態に即した水田農業の構造改革」を加速させるため、平成17年度に引き続き、集落を基軸にした集落営農システムの確立をめざします。具体的には、集落座談会を開催し、水田農業の今後の進むべき方向を話し合い、地権者と耕作者で組織された農家組合を中心とした農地管理体制づくりを進めます。また、平成18年度から三重県、東員町およびJAみえいなべと共同して「営農支援センター」を設立し、集落営農を中心とした担い手の育成、農産物のブランド化などの事業を展開していきます。

食料の安定供給を図るには、農用地を良好な状態で維持・保全し、かつ有効利用することが重要であることから、農業振興地域整備計画の見直しを行います。また、牛糞たい肥などを使った減化学肥料栽培に取り組み、将来にわたって環境にやさしい農業をめざします。



青川峡 キャンピングパーク



農業公園

魅力あるまちづくり、賑わいのあるまちづくりには、商店街が賑わうことと集客力のあるイベントや観光スポットを創造すること、そして、お客様を迎え入れる側の「お持て成しの心」が欠かせません。個人が保管している歴史や伝統工芸、絵画や写真、古い道具や機械など思いの品々をお店や自宅の一角に陳列し、訪れた人に見ていただく「いなべまちかど博物館」も35館になり、散策マップも整備され新たな観光スポットとなりつつあります。また、ひな人形を店先に飾る「あげきのおひなさん」の活動も36店が参加し、地域の活性化に貢献しています。これら市民のお持て成しの活動を支援し、賑わいのあるまちづくりを進めます。

ご好評いただいている青川峡キャンピングパークの平成16年度決算の事業収入は7千万円を超え、安定した経営を行っています。平成18年度はお客様の要望に答え、ログハウス型バンガロー3棟に引き続きコテージ2棟を整備し、更なる集客力アップをめざします。

また、市内4町の商工会の合併が平成19年4月に計画されており、「いなべ市観光協会」の設立も含め支援したいと考えます。

5-4 商業・観光の振興

全国ランキングで総合2位に輝いた青川峡キャンピングパークや延べ8万人が訪れる農業公園の梅祭りやぼたん祭りなど、市内にも観光客で賑わうイベントや観光スポットが増えてきました。本市ホームページの人気ランキングでも、観光に関するページが絶えず上位を占め、県外からも多くの問い合わせが寄せられています。

